

第 11 回：第 9 章（キャッシュフローを把握するための基礎概念）

キャッシュフロー計算書とは

→一会計期間におけるキャッシュ（資金）の出入りの状況を報告するもの

① キャッシュフロー計算書における資金の概念

資金の範囲（正誤理論で問われる）

資金		手許現金	
	現金	要求払預金	当座預金 普通預金 通知預金など
	現金同等物	3ヶ月以内	定期預金 譲渡性預金 CP

※3 か月以内→あくまでも一般的な例（試験では指示なければ 3 か月で判断）

※現金同等物→容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか追わない短期投資

有 価 証 券→リスクあるのでダメ（CF 導入前の資金収支表では一時所有の有価証券は資金とされていた）

4 か月定期預金→短期じゃないからダメ

当座借越→B/S 上は短期借入金だが負の現金同等物として現金同等物から控除

例：現金 1,000,000、普通預金 1,000,000、短期借入金 500,000（うち当座借越 100,000）

→現金同等物 1,900,000

資金の範囲は継続適用→変更時には注記が必要

② キャッシュフローと非資金取引（軽くみておこう）

・重要な非資金取引（翌期以降に CF に大きな影響を与える取引）は CF 計算書に注記

<新株予約権付社債の資本への転換>でイメージしよう

社債 100,000 / 資本金 110,000

新株予約権 10,000

<社債の元本と利息を減らす> + <配当金の増加> という将来への影響

③ 表示区分→CF = 営業CF + 投資CF + 財務CF

営業CFとは？

投資CFとは？

財務CFとは？

詳しくは10章で説明しますが、表示区分の判定方法は確認しておこう
「CF取引がどの活動とより強く関連しているか」で判定
例をみてみよう

<商品販売後の手形割引>→元は営業活動→営業CF
受取手形 100,000 / 売上 100,000
現金 99,000 / 受取手形 100,000
手形売却損 1,000

<破産債権（売掛金）の回収>→元は営業活動→営業CF
現金 100,000 / 償却債権取立益 100,000

<固定資産購入の未払金支払>→元は投資活動→投資CF
備品 100,000 / 未払金 100,000
未払金 100,000 / 現金 100,000

ただし、未払金の支払いが6か月以上とか、12回払いのように財務的要素が強い場合には財務CFになるケースもある

利息と配当の表示方法は2種類（継続適用）

	PL項目か否か	成果
受取利息	営業活動	投資活動の成果
受取配当	営業活動	投資活動の成果
支払利息	営業活動	財務活動の成果
支払配当	財務活動	財務活動の成果

フリーキャッシュフロー
→営業CF + 投資CF

・新規投資 + 負債返済の原資になる

④ CFの総額表示と純額表示

★財務・投資CFは原則として総額表示（例外もあり）

有価証券・固定資産の取得と売却

新規借入と借入返済（但し、3か月以内の借換えなどは純額も可）

※これを「期間が短く、かつ回転が速い項目」という

∵1か月毎に100,000円借りて翌月に100,000円返済すると1年トータルでは
新規借入1,200,000、借入金の返済1,100,000となり100,000円の資金需要という
事実が隠されて、結果として投資家に誤った判断をさせてしまうから

★営業CF

直接法は総額 But 間接法は総額ではない（純額ともいいにくいが・・・）

<マトメ>では練習問題を確認しよう

9.1 現金および現金同等物。たとえば・・・

9.2 資金の範囲には、「4か月以内の定期預金」を含むなど

9.3

	内容および理由
C F 計算書に含まれる取引	市場性ある有価証券の売却 給与の振込 資金の一部に現金を含む営業譲渡 社債の償還
C F 計算書には含まれないが注記すべき取引	新株予約権行使による社債元本↓株式発行（利息・配当） F リースによる資産の取得（返済および金利）
いずれにも含まれない取引	事業用土地の等価交換（何もかわらない） 手元現金の当座預金への預け入れ（何もかわらない）

9.4

(1)法人税は営業活動に含む

(2)○（回答は×だが??）

(3)○

(4)×（例外もある）

(5)×（一時的は営業活動の一環）

9.5

（財務）短期借入金の頻繁な借入と返済

（投資）短期貸付金の頻繁な貸付と返済